

令和 2 年度第 2 号
令和 2 年 10 月末発行
編集発行：日本 EAP 協会 編集委員会・事務局

会員の皆様

いよいよ秋も深まり夜寒を覚えるこの頃、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の猛威が止まらず、各方面への影響が拡大しています。一刻も早い収束が期待されているところではありますが、今後もまだこのような状況は継続していくものと考えられています。

従業員の方々が慣れないテレワーク・在宅勤務等で大変な思いをされているのはもちろんのこと、企業側にとっても経営から雇用問題、さらには感染対策までと、対応すべき内容が今までになく多岐にわたり、それらの問題もめまぐるしく変化していく中で、大変な時期を迎えています。「コロナうつ」という言葉も生まれ、各自程度の差はあれコロナ中心の日常生活を送らざるを得ない状況の中、これまでうつ病の傾向があった方々だけでなく大きな問題を抱えていなかった方々のメンタル状態にも悪影響が出始めています。コロナ時代の不安な状況が続く今だからこそ、以前にも増して従業員のメンタルケアの必要性が叫ばれており、このような社会のニーズに即した EAP に存在価値が求められてきています。

さて、今号では「令和 2 年度日本 EAP 協会第 21 回総会・情報交換会」のご案内、および「令和 2 年度年会費について」のお知らせ、および 7 月にオンラインにて開催いたしました「令和 2 年度日本 EAP 協会第 1 回研修会」報告、および今号から新たにスタートしました「会員による自由投稿」として、まず筆頭に当協会会長・角田透先生の投稿をご紹介します。

ニューズレターでは、協会の活動報告のみでなく会員の皆様に有益な情報もお届けできればと思っております。ぜひ皆様におかれましては、活動情報や自由投稿を事務局までお寄せいただけますよう、お待ちしております。

【令和 2 年度日本 EAP 協会第 21 回総会・情報交換会 (Zoom によるオンライン開催) のお知らせ】

この度、新型コロナウイルス感染予防の観点から延期にしておりました年次総会につきまして、11 月 14 日 (土) 18:00~オンラインにて開催する運びとなりました。なお、例年、総会と同時開催しておりましたシンポジウムにつきましては、今年は皆様の安全を最優先とさせていただきたく中止といたします。楽しみにしていらっしやうの方々にはご迷惑をおかけいたしますが、感染症の予防にご理解とご協力をいただけますよう、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

また、シンポジウムの開催は中止とさせていただきましたが、総会後にはオンラインでの情報交換会を企画しております。直接一同に会して会員の皆様がお会いできる機会の提供はできませんが、いまできる限りの状況で懇親の機会を設けたいと思っております。情報交換会への参加も受け付けておりますので、ぜひ皆様のご参加をお待ち申し上げます。

*参加方法は、別紙のご案内をご参照下さい。

2020 年 11 月 14 日 (土) ・年次総会 (Zoom) : 18:00~
・情報交換会 (Zoom) : 18:40~

*情報交換会へのみの参加も受け付けます。EAP に興味のある方でしたら非会員の方もご参加いただけます。

日本 EAP 協会

(事務局) 〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室内
TEL : 0422-47-5512 内線 3460
Mail : neap@ks.kyorin-u.ac.jp

【令和2年度年会費について】

今年度（令和2年度）は感染予防を最優先とさせていただいているため、協会として活発な活動を実施するのが困難な状況となっており、有益なサービス提供ができず会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。

このような状況とコロナによる経済の落ち込み等の社会的状況も考慮し、今年度（令和2年度）は年会費を徴収しない特別措置をとることと決定いたしました。

令和3年度からは通常通り年会費を請求させていただきますので、その旨、何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

（*前年度までの年会費未納分の該当者様におかれましては、速やかな納入をお願いいたします。
また賛助会員のホームページバナー代は例外となりますので別途請求をさせていただきます。）

【令和2年度第1回日本EAP協会研修会のご報告】

開催日：2020年7月15日（水） Zoomによるオンライン開催

出席者：21名（参加者15名、研修委員6名）

テーマ：『体験から学びとるオンライン面接のポイントーPLAY&SHAREー』



2020年7月15日（水）、「令和2年度第1回 日本EAP協会研修会（体験から学びとるオンライン面接のポイントーPLAY&SHAREー）」が開催されました。

新型コロナウイルスの影響の長期化に伴い、社会情勢、特に「働き方」に関する変化が大きい中で、我われ産業領域の援助職に何ができるのか。外出自粛要請がなされ従来の支援活動が制限される中で、特にニーズの高まりを見せていたのがオンライン相談でした。

しかし、「どのように始めたらよいかわからない」「始めてはみたもののこのやり方でよいか不安である」という戸惑いの声も大きく、それを受けて、実際にオンライン面接を体験しポイントや気づきをシェア・整理する場として試みたのが今回の研修会です。初のオンライン開催は、全国から15名が参加されました。

研修会はオンライン相談のポイントから始まり、実際に面接のロールプレイを行う流れで行われました。実際に起こりうる事象の確認ができたり Web カウンセリングの可能性を感じられたりできる、とても有意義な会となりました。話題が尽きることなく、第二部の懇親会にも多くの参加者が出席してくださいました。いわゆる Zoom 飲み体験も交え、盛況のうちに幕を閉じました。

オンライン開催は初の試みでしたが、全国からお集まりいただけたのが最大の特徴と言えるでしょう。研修会の機会が減り、支援者同士のネットワークや情報共有の機会が乏しくなっていた時期でしたので、オンライン開催を通じて新たなつながりを作る可能性を見出すことができたようにも思います。

（文責：研修委員 清野俊充）



会員による
自由投稿
ページ

新型コロナウイルスへの対応

日本 EAP 協会会長 角田 透

今日は 10 月最後の日曜日。日本ストレス学会の 2 日目ですが、無観客での実施となり、録画をその後の一定期間に聴取することで参加ということになりました。参加予定者にとって予定外の空き時間です。その時間を利用したわけではありませんが、ニューズレターの原稿を書きました。テーマは勿論、新型コロナウイルス、CORPID-19 ですが、ここでは対処方法についての個人的な意見です。

さて、「病気に負けない強い身体」とは、よく聞くのですが、一体どのような身体が「病気に負けない強い身体」なのか。新型コロナウイルス感染症を例にして考えてみましょう。

まずは感染症についての基本的なおさらいですが、感染症成立の 3 大条件という概念があります。具体的には、①「感染源」、②「感染経路」、および③「宿主の感受性」の三つです。初めての方には、ちょっと、とっつきにくいかも知れませんが、平たく言えば、①は病原微生物そのものが居なければ病気が起こりませんし、②は、たとえ居たとしても私たちの身体まで到達しなければ染（うつ）りようがありません。また、③は、私たちが、その病原微生物に対して抵抗性を持っていれば、すなわち免疫であれば、発病のしようがありません。

言い換えれば、病原微生物が身近にあふれており（流行状態となっており、多くのものがその病原微生物で汚染）、それを不注意に自分の身体の中に侵入させてしまい、そのうえ、抵抗力が弱いと罹ってしまうのです。

さて、それではどのようにして防ぐのがよいのか、ということですが、答えは①②③の条件ごとにいくつか考えられますが、例えば①と②でしたら、対象の病原微生物が拡がらないように全滅させるか、あるいは拡大の経路を封じ込めてしまえば OK です。具体的には、水際作戦はその一つで、流行地から来航した船があり、乗客に感染者がいるとすれば、取り敢えずは港に係留を認めるとしても、上陸禁止とするようなことです。1 人も下船させず、代わりに船内では感染者を隔離し、患者との接触を厳重に管理し、感染を防ぐ、ということです。今回のダイヤモンド・プリンセス号はうまくできなかったようですが、当事者の意識がそれなりであれば、さほどに難しいことではないと思います。基本は手指の消毒とマスクの装用、適切な換気ということでしょうか。詳細は既に多くのご案内に示されている通りです。

このように①と②については簡明な説明が可能です。そこで残りは③ですが、これは環境条件とそれまでの積み重ねに左右されます。

また、おさらいですが、「感染」と「発病(発症と言うこともあります)」とは違うことを思い出して下さい。「感染」は新型コロナウイルスにたかられた、ということで、「発病」とは、たかってきたウイルスをやつけることが出来ずに負けてしまい、新型コロナウイルスの病原性が発現し、症状が出てしまうことです。その時は、「新型コロナウイルス感染症」という病名が付きます。お気づきでしょうか、感染がおこると、その次には、私たちの身体の中の防衛機構（一般に身体の抵抗力と言いますが、免疫機能も含まれます。）が働いて新型コロナウイルスとのドンパチが起こるわけです。このドンパチに勝つことが大事です。

ドンパチに勝つには何が肝要か、ということですが、まずは基礎的な体力が第1のポイントです。基礎的な体力というのは抽象的な概念ですが、病気に負けないスタミナのある元気な身体というイメージ、普段から鍛えられた健康的な生活習慣が身についた身体といってもいいでしょう。

次の要点が特異的免疫能です。平たく言えば、ワクチン（予防注射）を済ましておくということですが、新型コロナウイルス感染症は新しい病気なので、現時点（2020年10月）では、見通しは暗くはなさそうですが、治療薬は手探りですし、ワクチンは開発中という状況です。残念ですが、この選択肢は、まだ準備できていません。

ところで、新型コロナウイルス感染では、持病のある人や高齢者は要注意とされています。それは基礎的な体力という点で問題となることを意味しています。高齢というのは身体のあちこちで機能低下をきたしていることが多いのでリスクとなっているのです。ヘビースモーカーや大酒飲みが不利な条件となるのも想像がつくでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症では相当な率の無症状の感染者がいることが報告されており、これが厄介な問題となっています。他の病原微生物にも認められることで、詳細なメカニズムは不明ですが、いわゆる健康保菌者と言われており、ウイルスを撒き散らしているにもかかわらず、当の本人には何の症状もないという不思議な状態です。現時点では、そのような無症状の状態が、どのくらい持続するのか不明で、短い期間かも知れませんが、当然、発見が遅れますし、感染も広がり易い、ということになります。



新型コロナウイルス感染症は本当に困った問題ですが、たかられないようにするのが（感染を受けないことが）大原則であります。繰り返しますが、それには感染防止策をきちんと実践することがすべてです。具体的には、できる限り3密を避け、手指の消毒を機会あるごとにきちんと実践し、マスクは面倒くさがらずに適切に着用し、部屋の換気にも充分気を付けて、などの事項であります。既に社会全体に広く発信されていることで、特別なことではありません。

読者の方の中には対人医療サービスに従事していらっしゃる方がいらっしゃると思います。あるいは準医療職として関連の方もいらっしゃると思います。対応の対象となる一般の方々に範を示すようなことまではとも角としても、このことは何かと話題になりますので、皆様方のひとりひとりが、常にこれらを念頭に置いて、社会の回復にも貢献できることを意識なさって、この難局を乗り越えるべく頑張ってくださいませよう、よろしくお願ひ致します。

**本ページについては、
会員の皆様からの幅広い
テーマでの寄稿を募集
しています！！**



<関連学会のご案内>

*現在、新型コロナウイルス感染拡大のため、各学会に関しては開催が延期・中止・web開催となっておりますため、記載については控えさせていただきます。

<事務局からのお願い>

*令和元年度個人会員年会費として、令和元年9月12日（取扱い店：新横浜駅前）に6,000円の振込が無記名にてございました。二重請求防止のため、心当たりのある方は事務局までお早めにご連絡をお願いいたします。

*当協会ではセミナーのご案内等メールでのご連絡を多く活用させていただいております。しかし、メールをお送りしても届かないケースが増えております。また、郵送の際にも同じケースが増えております。連絡先が変更になった場合は、必ず事務局までお知らせいただけますよう、何卒よろしくご申し上げます（「会員情報変更届」は日本EAP協会ホームページ「入会案内」<http://eapaj.umin.ac.jp/info.html>より入手できます）

*ニューズレターでは、ぜひ会員の皆様からの有用な情報を掲載させていただきたく、投稿をお待ちしております。

<同封物>

・令和2年度第21回総会・情報交換会のご案内

<お知らせ>

令和2年度（2020年度）会費は特別措置のため請求を行いませんが、バナー登録企業様におかれましては、別途請求書を送付させていただきます。